

編集後記

今年の冬はとても寒い。九州の人間がこんなことを書くと北国の先生から怒られそうであるが、でも寒いのである。この数日（2月初旬）は記録的な寒波の襲来で、最高気温も1〜2度にしか上がらない。何でも、来週冬季オリンピックの開会式が行われる韓国の平昌ではかなりの冷え込みが予想されており、選手の最大の敵は寒さであると報道されていた。上には上の寒さがあるものと再認識した次第である。一方、今年の夏は暑かった。それも世界的な暑さで観測史上2位の記録（1位は2016年）であったという。暑すぎたり、寒すぎたり、温暖化なのか、寒冷化なのか、たまたまなのか？ ものの本には「温暖化による異常気象が招いた寒冷化」とも書かれており、よくわからないが漫然とした不安は感じる。

わが国で高齢化の問題が叫ばれて久しい。日本はすでに65歳以上の方が人口の21%以上を占める超高齢社会に到達しており、さらに30%を占めると予想される2025年問題は7年後にやってくる。要支援・要介護の主たる要因のうち、骨折や関節症などの運動器疾患が約25%を占めているとの調査も公表されている。

高齢者の運動器疾患が深刻化する中、今月号の特集

は「高齢者の脊髄損傷」がテーマに選ばれた。脊髄損傷の典型として、若年者の高エネルギー外傷による受傷者を思い浮かべる方も少なくないと思われるが、最近はかなり事情が変わっているようである。総合せき損センターの前田健先生のOverviewを参照すると、1990年から1992年の全国調査では、脊髄損傷のピークは59歳と20歳の二峰性であった。しかしながら、2013年のデータでは、若年者の頻度は減少し、高齢者の転倒など低エネルギー外傷による非骨傷性頸髄損傷の頻度が増加傾向にあることが示されている。また、年齢分布も70歳代にピークを持つ一峰性に変化したとのことである。特集を通読して感じることは損傷形態も多様化していることである。反町氏は歯突起骨折、澤上氏はDISHに伴う脊椎外傷について記載いただいた。

人口の年齢構成の変化により、疾患構成も大きく変化していく。医療に携わるものは、その変化に自らの知識と技術を対応させていかなければ時代についていけない。「高齢者の脊髄損傷」はまさにその変化の代表であろう。読者諸氏の知識アップデートに期待する。

（中島康晴）

「整形・災害外科」第61巻 第3号（3月号） 2018年3月1日発行（毎月1回1日発行） 定価（本体2,500円＋税） 年間購読料金 定価（本体39,400円＋税） 〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕 〔年間予約購読者に限り送料無料〕	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14 TEL 03 (3811) 7165〔編集室直通〕 TEL 03 (3811) 7184〔営業部直通〕 FAX 03 (3813) 0288 http://www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 広告申込先 福田商店 TEL 06 (6941) 5600
--	---

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、二次的著作物の利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-3513-6969、FAX 03-3513-6979、e-mail:info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。